株式市場新聞
www.marketpress.jp
2022 9/5 月曜日
発行元　株式会社 株式市場新聞社
〒541-0058
大阪市中央区南久宝寺町３丁目２-７
TEL 06-6105-1904

日経平均株価
２万８１７５円８７銭
▲２４３円６７銭（前日比）
ＴＯＰＩＸ
１９４７．１７
▲１６．４４（前日比）

話題はメタバースとVR

TGS2022の開催迫る

クリスマス商戦へ期待高まる

９月１５日から１８日まで「東京ゲームショウ２０２２」が開催される。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で２１年と２１年の過去２年間はオンラインのみの開催となっていたが、ウイズコロナで経済活動が正常化している今年は幕張メッセで３年ぶりにリアルでも開催される。この数年間、コロナ禍で外出制限となるなかで巣ごもり需要でゲームソフト各社の業績は好調で、魅力ある新作ソフトが公開されれば、改めて好実態がクローズアップされそうだ。

これまでゲームソフト各社はゲーム専用機へのソフト供給と店頭でのパッケージ販売の依存度が高かったが、この数年はＰＣやスマホ・タブレット向けを含めたマルチプラットフォームを推進、ダウンロード販売の比重を高めたことで利益率も向上している。そのようななかで、今回のゲームショウで新作ソフトが公開されれば、クリスマス商戦へ向けての期待が高まることになる。

カプコンからはエグゾブライマルが公開される

幕張メッセでのリアル開催に加えて注目されるのがバーチャル会場「東京ゲームショウＶＲ２０２２」の存在。メタバースでしか実現できない、離れた場所からでもゲームファンが集えるもので、**カプコン**（９６９７）や**コーエーテクモ**（３６３５）、**スクウエア・エニックス・ホールディングス**（９６８４）傘下のスクエアエニックス、**セガサミーホールディングス**（６４６０）傘下のセガ／アトラスなどが参加を表明している。

ソフトではカプコンがエグゾプライマル（２０２３年販売予定）やＰｌａｙＳｔａｔｉｏｎＶＲ２版「バイオハザード ヴィレッジ」など、セガ／アトラスでは「ソニックフロンティア」など、コーエーテクモは「Ｗｏｒｌｄ：Ｆａｌｌｅｎ Ｄｙｎａｓｔｙ」や新作スマホアプリ「信長の野望 覇道」などが公開される。

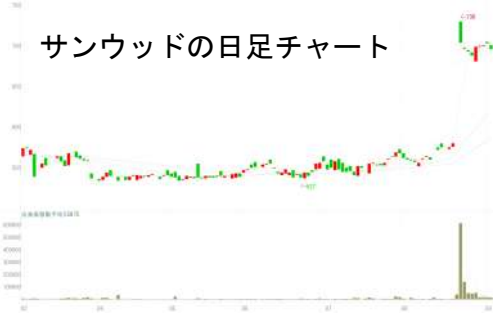
日経平均の日足チャート

8月第4週の動意銘柄

サンウドS高で新値

増配と自己株取得枠設定を好感

週明け22日、**サンウッド**（8903）がストップ高、年初来高値を更新した。23年3月期の期末一括配当の修正を発表、25円から30円（前期25円）へ引き上げた。同時に上限10万株（発行済株式総数に対する割合2・1％）の自己株式取得枠の設定を発表、取得期間は8月22日～12月29日。



あいHD増収益連続増配

あい ホールディングス（3076）が大幅続伸、年初来高値を更新した。23年6月期連結業績は、売上高480億円（前期比2・0％増）、営業利益103億円（同4・6％増）と前期に続いて増収増益を見込み、年間配当を75円（前期60円）へ連続増配を計画した。新製品投入により監視カメラなどセキュリティー機器が好調で、収益拡大に伴い、株主還元を充実する。

富士石保有比率低下

富士石油（5017）は急反落。大量保有報告書でシティインデックスイレブンスの保有比率が前回提出時の10・1％から12日現在で4・91％にまで低下したことが判明したことで、一段の手じまい売りによる株価下落リスクを回避する売りに押された。需給と再編への思惑などでから株価は上昇が続き、12日に年初来高値409円をつけていた。

ノムラシス運用支援受注

23日、**ノムラシステム**（3940）が急伸、年初来高値を更新した。次世代戦略事業部が「通信キャリアを中心に売上高12兆円に迫る日本最大の企業グループ」における地域通信事業を担うグループ会社から、サブスクリプションビジネス運用支援プロジェクトを受注したと発表したことが好感された。

旅行関連水際対策緩和

JAL（9201）や**エイチ・アイ・エス**（9603）、**エアトリ**（6191）など旅行関連が高い。政府は入国・帰国時に求めている海外での新型コロナ検査について、条件付きで不要とする検討に入ったと伝わった。日本の水際対策は主要7カ国で最も厳しく、海外出張や旅行がしにくく、訪日客受け入れの障害になっており、旅客需要回復が期待された。

日野自エンジン不正拡大

日野自動車（7205）が大幅続落、連日で年初来安値を更新した。エンジン認証不正問題について、小型トラックでも不正があったと発表。国内で販売するトラックの大半が出荷できなくなり、業績への打撃を懸念した売りが膨らんだ。

グロバル社はSBI親会社に

24日、**THEグローバル社**（3271）がストップ高。**SBIホールディングス**（8473）が持分法適用会社の**アスコット**（3264）が保有する同社株式全株を取得すると発表した。異動日は9月21日で、買収価額は約30億8000万円。SBIHDが親会社になることにより、不動産関連金融商品事業で相乗効果が期待された。

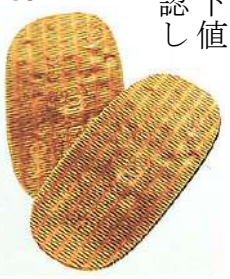
正直じいさんの株で大判小判

中小型材料株個別狙い

前週の東京市場は大幅に続落しました。日経平均は前週末比990円安です。パウエルFRB議長がジャクソンホール会合の講演で大幅利上げを続けるタカ派姿勢を強調したことで米国株が急落、日経平均は週初に700円を超える下げとなりました。週央にかけては自律反発など底堅く推移しましたが、米国株の下げが止まらず、持ち堪えることができませんでした。米利上げへの楽観的な見方が覆り、一転し強めています。

米8月雇用統計はソフトランディング容でしたが、米国株は大幅下落。今週はOPECプラス会合やECB理事会が予定されているうえ、週末にはメジャーSQを控えています。引き続き200日線が下値支持機能を果たすか確認しながら、値の軽い中小型材料株を個別に狙う一方、大型株の戻りはショートで対処。

花咲 翁



原発関連買い広がる

次世代原発開発・建設検討

２４日、**東京電力ホールディングス**（９５０１）が急伸したほか、**三菱重工業**（７０１１）や**日立製作所**（６５０１）、**ＩＨＩ**（７０１３）、**日本製鋼所**（５６３１）など原発関連銘柄に買いが広がった。岸田首相はＧＸ（グリーントランスフォーメーション）実行会議で次世代型原子力発電所の開発・建設を検討するよう指示すると伝わった。原発新増設やリプレースは想定しない従来の方針を転換、電力の安定供給を目指す。来夏以降に最大１７基の原発を再稼働、最長６０年の原発運転期間延長に向けたルール見直しも検討するとしており、原発政策推進明確化が期待された。

岡野バに短期資金向う

２５日、**岡野バルブ製造**（６４９２）がストップ高。岸田文雄首相が次世代型の原子力発電所の開発・建設を検討するよう指示したと伝わったことを受け、原発関連株が見直されるなか、原子力・火力発電所向け高温・高圧用バルブが主力の同社には値動きの良さから短期資金が向かった。

鈴与シン契約8万台

鈴与シンワート（９３６０）がストップ高。運転前アルコールチェック＆検温クラウドサービス「あさレポ」の契約デバイス数が８万台を突破したと発表、さらに、１０万台への増産を開始したほか、あ付帯したサービスを積極的に展開していくとしており、収益貢献が期待された。

神戸物11%増収も想定内

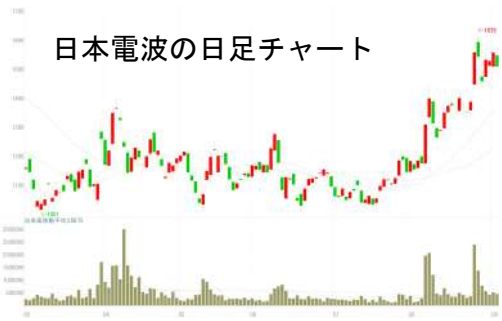
神戸物産（３０３８）が続落。７月度の個別売上高は前年同月比１１・４％増、業務スーパーの直轄エリア全店への商品出荷実績は同８・８％増、全国全店への商品出荷実績は同１０・０％増となったが想定内として売られた。引き続き利便性の高い冷凍野菜が好調に推移。アイスや飲料などの夏物商材も好調という。

日電波は上昇率トップ

三菱UFJMS目標株価引き上げ

日本電波工業（6779）が急伸、東証プライム市場上昇率トップに立った。三菱UFJモルガン・スタンレー証券がレーティング「Overweight」を継続、目標株価を2200円から2400円に引き上げたことが好感された。車載向け需要拡大とフォトリソ製品比率増加に伴う業績改善を指摘、事業構造改革の期間が終了し、今後は成長戦略に視点が移ると判断している。

日本電波の日足チャート



8月第5週の動意銘柄

タカショー2Q32%減益

週末26日、タカショー（7590）が急反落、東証全市場で値下がり率トップになった。23年1月期第2四半期の連結決算は営業利益は7億8600万円（前年同期比32・4%減）で着地、第1四半期の9・7%増益から急減速しており、季節要因はあるものの、通期計画の15億6800万円（前期比6・4%増）も未達成が懸念された。運賃高騰により海外売上げが大幅に減少、広告宣伝費や販売促進費の増加も収益を圧迫した。

イワキ中国2社連結化

イワキ（6237）が大幅高で年初来高値を更新した。IPH社とIPS社の中国持分法適用関連会社2社の株式を追加取得して連結子会社化すると発表したことを受け、グループ収益への貢献を期待された。取得予定日は9月30日で価額は計約25億円。業績への影響は精査中。

クロスキャット好業績見直す

週明け29日、クロスキャット（2307）が急伸、プライム市場上昇率トップに立った。23年3月期1Qの連結営業利益で前年同期比3・1倍の3億8000万円と大幅な増益を達成しており、好調な業績から見直し買いが入った。システム開発はDX化が追い風で、オープンシステムを接続するAPIの効率的な開発環境を提供するオープンレガシージャパンとの協業効果も期待されている。

ジャフコG持株比率低下

ジャフコグループ（8595）が大幅に続落した。大量保有報告書でシティインデックスイレブンズの保有比率が11・87%から10・75%に低下したことが判明し、手じまい売りによる株価下落リスクを回避する売りが膨らんだ。一時は51%の株式取得を示唆されたとして、同社では対抗策の導入も決めていた。

FIGドローン出展

29日、FIG（4392）が急伸、年初来高値を更新した。9月15日から開催される「ロボテスXPO2022ドローン・ロボット実演展示会」ではグループ会社のciRobotics社が、ドローンアナライザーを出展することが関心を集めている。展示会では大型ドローン性能評価装置のドローンアナライザーについて実演見学バスツアーにおいてドローンの性能評価試験のデモンストレーションを行う。

転ばぬ先のテクニカル

ブルベアトレード

先週の東京株式市場は続落となりました。週足は窓を空けて下放れ、52週線を割り込んでしまいました。週足一目均衡表では辛うじて転換線で止まっていますが、日足一目均衡表では転換線と基準線がデッドクロスを示現しており、遅行スパンも日々線を割り込みだしたことから暗雲が立ち込めてきました。海外投資家が売り越しに転じてきており、当面は戻り売りと考えねばならないようです。

日経平均が軟調になれば個別株も追随する銘柄が増加します。指数採用銘柄は避けて小型材料銘柄狙い主体の組み立てが必要と思われます。或いは崩れた銘柄のリバウンドを待ってショートポジションを組むことも一考の余地ありでしょう。小型材料株では継続疑義となっていますがenish（3667）を、リバウンド待ちのショート目線でバンダイナムコ（7832）に注目しています。

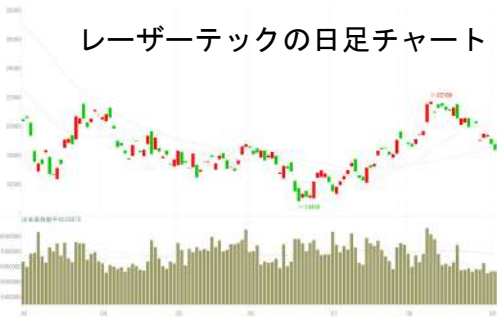
日々勇太朗

半導体関連下げ目立つ

SOX指数下落率6%に迫る

29日、**レーザーテック**（6920）、**東京エレクトロン**（8035）、**アドバンテスト**（6857）など半導体関連の下げが目立った。ジャクソンホール会合での講演でパウエルFRB議長がタカ派姿勢を強調したことを受け、金融引き締め長期化観測が強まり、米国株が急落、特にハイテク・グロース株の下げがきつく、半導体関連銘柄で構成されるSOX指数の下落率は6%に迫り、国内関連株にも売りが波及した。

レーザーテックの日足チャート



NEC2.5%の自社株買い

29日、**日本電気**（6701）が急反発。同社は2自己株式取得枠の設定を発表した。上限670万株（発行済株式総数に対する割合2・46%）または300億円で取得期間は8月30日から23年3月31日。成長領域への積極的な投資を継続するとともに、長期安定的な配当と企業価値の向上を通じて株主へ利益を還元するため。

不二電機は上方修正

不二電機工業（6654）が反発。23年1月期の業績予想について、営業利益で2億3200万円から2億9100万円（前期比27・1%増）へ上方修正した。経費の節減・見直しが寄与した。

元気寿司営業益5.2倍

元気寿司（9828）が反発。23年3月期の第1四半期決算は、連結営業利益で前年同期比24・5倍の5億3800万円となった。まん延防止等重点措置が解除され、季節・催事に合わせた期間限定商品の積極的な投入と販促・訴求強化に取り組んでいる。

IRJインサイダ関与否定

31日、**アイ・アールジャパンホールディングス**（6035）が大幅高。前代表取締役副社長・COOの栗尾拓滋氏が在職中にインサイダー取引に関与したとの疑義について調査委員会より調査報告書を受け取り、会社組織としての関与が否定されたことで買戻しが優勢になった。

F&LCマグロ偽装疑惑

FOOD & LIFE COMPANIES（3563）が大幅続落。スシローでマグロの偽装疑惑が発覚したと伝わった。メバチマグロのみを使っているとしていた鉄火巻きに一部キハダマグロが使用されていることが判明した模様。

電池関連が大幅高

1日、**田中化学研究所**（4080）、**日本電解**（5759）のリチウムイオン電池関連が大幅高。**トヨタ自動車**（7203）が需要が拡大するバッテリーEV供給に向け、日米で最大7300億円を投資、24～26年の車載用電池生産開始をめざすと発表した。

企業観察　ハリマ化成G（4410）

ローターが全社収益牽引

ハリマ化成グループ（4410）の23年3月期第1四半期の連結決算は、売上高221億8400万円（前年同期比27・1%増）、営業利益13億4000万円（同67・2%増）と計画を大きく上回って着地、第2四半期累計と通期計画を上方修正した。欧米で粘接着剤用樹脂の需要が拡大、自然由来の松やにを原料とする同社製品には「石油代替でもニーズが強まっている」（会社側）としており、原材料価格上昇に対応した販売価格の引き上げも順調に進んでいる。

粘接着剤用樹脂は通販市場拡大に伴い宛名用ラベルシール向け需要が世界規模で拡大、路面標示塗料用樹脂も北米を中心に堅調に推移しており、物流混乱によるオセアニア地域の販売減少や印刷インキ用樹脂の低迷をカバーして、ローターの第1四半期は売上高96億1100万円（同47・4%増）、営業利益9億2900万円（同79・5%増）で着地した。ローターは欧州でグループのサンパインから粗トール油を調達、原料一貫による競争力でも優位に立つ。

値上げ進み原料一環の優位性も

足もとローターは好調が続き、全社収益を牽引している状況に変わりはなく、通期の上方修正値は保守的に見積もっているようだ。

高野恭壽の株式情報 これでどゃ!!

株式市場新聞の名物コーナーが復活！

物色は内需が中心

重工やＥＶ関連続いて注目

先週の東京市場はＦＲＢ高官の相次ぐタカ派発言を受けてニューヨーク市場とともに調整色の強い展開になりました。日経平均は８月２日の安値２万７５３０円まで急接近したのですが、かろうじて割り込みませんでした。この安値を割り込むと日経平均は上げトレンドが弱くなる可能性がありますので、ニューヨーク市場動きを注意深く見守りたいところです。

８月の製造業景気指数（ＩＳＭ）が７月比ほぼ横ばいになって金利上昇緩和の可能性が期待できることや８月雇用統計の堅調な内容への期待から、１日のニューヨーク市場は６日ぶりに反発しています。日米金利差の拡大で円相場は１４０円台に乗せており、本来なら大きく下落したハイテクなどが買戻しが見込まれますが、米金利動向が不安定であり、戻しても限界があることから物色は内需系が中心となりそうです。

個別では防衛と原発の再稼働・新設の絡みで**三菱重工業**（７０１１）を先月から紹介していました。当面は調整局面が続くとみられますので、戻しても５３００円台が限界と予想しています。調整で突っ込み場面では拾う姿勢を続けることです。

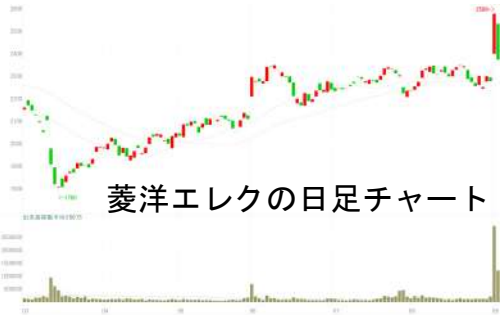
ＥＶ関連では**三菱自動車**（７２１１）や**戸田工業**（４１００）の堅調さがみられ、調整中の**東光高岳**（６６１７）も５０日線接近からの出直りを見ていますのでも要注目。

全体の低迷のなか、医薬品の見直されていましたので、**アステラス製薬**（４５０３）、**第一三共**（４５６８）などの動きが注目されます。

高野恭壽(たかのやすひさ)**氏**　株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめＴＶ、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。
公式ホームページ
https://marketpress.jp/kabu-takano/

菱洋エレク急反発

今期大幅上方修正で増配



菱洋エレクトロ（８０６８）が急反発。２３年１月期の業績予想について、連結売上高で１００億円１３０億円（前期比０・８％増）、営業利益で２３億円から３６億円（同５９・４％増）へ大幅上方修正、期末配当を５０円から６０円（前年同期６０円）へ引き上げた。大幅に伸びた上期や足元の動向、為替の影響などを踏まえた。

ACCESS赤字拡大

ＡＣＣＥＳＳ（４８１３）が急落。２３年１月期第２四半期累計の連結決算は、営業損益２０億１６００万円の赤字（前年同期は１８億１８００万円の赤字）と赤字が拡大した。米国に拠点を置くネットワーク事業の円換算営業損失が拡大。

ダイオーズTOBで急伸

週末２日、**ダイオーズ**（４６５３）が急伸、年初来高値を更新した。投資ファンドのインテグラルが持ち分の１００％を保有するボイジャーが一株１５００円でＴＯＢすると発表した。ＴＯＢ成立後は上場廃止となる。

石油関連総じて安い

ＩＮＰＥＸ（１６０５）や**出光興産**（５０１９）をはじめ石油関連株が総じて安い。ＮＹ原油先物ＷＴＩ１０月限が２・９４ドル安の１バレル＝８６・６１ドルまで売られた。ドル高が進行に伴いドル建て取引の原油相場に割高感が意識されるなか、中国四川省成都ロックダウンによる中国景気減速とエネルギー需要減退が警戒された。

FPGトランジションF

ＦＰＧ（７１４８）が最高値更新。脱炭素社会への移行に貢献する「トランジション・ファイナンス」の一環として、新たにコンテナ船１５隻、総額約２０５０億円を対象とした大型案件を受注したと発表した。コンテナ船はＬＮＧとディーゼル燃料を切り替えて運転可能なデュアルフューエルエンジンなどを搭載。

厳選 活躍期待銘柄

日立造船（7004）

全個体電池で業容変貌期待

日立造船（７００４）の株価は８００円台前半のもみ合いを経て上値追いの状況になってきた。全個体リチウムイオン電池など時流に乗る材料をバックに６月８日の高値９３０円奪回を期待して２５日線を下値目途に押し目買いで対処したい。

今２３年３月期は前期計上したドバイ案件はく落の影響があるものの、受注は高水準で、通期連結営業利益２００億円（前期比２８・７％増）は上振れ期待が高まる。ＪＡＸＡとは国際宇宙ステーション（ＩＳＳ）の「きぼう」日本実験棟に設置した全固体リチウムイオン電池の実証実験を実施し、世界で初めて宇宙で充放電できたことを確認。月面に設置する観測機器や、小型のローバ、更に大容量化を実現した後には、本格的な大型のローバなどの宇宙機での使用が期待される。（と）

受注高水準で今期上振れも

高田工業所（1966）

原発の品質管理で最高評価

高田工業所（１９６６）が原発関連株物色の流れに乗り、上値志向を鮮明にしてきた。

鉄鋼、化学など産業設備を手掛けるプラント建設会社で、原発設備ではステンレスライニングや大型貯槽、配管などの建設を手掛け、なかでも使用済燃料を貯蔵するステンレスのプールは設計から現地工事までを一貫して実施、原子力発電プラントの品質管理で最高評価を得ている。足もとの業績も好調で、脱炭素関連設備など環境対応投資や定修、老朽化設備の更新需要も取り込み、２３年３月期１Ｑは連結営業利益８億２９００万円（同４・７倍）で着地した。通期計画の２０億３０００万円（前期比６９・２％増）に対する進捗率は４１％に達し、上振れが期待できる状況。

ＰＥＲ６倍、ＰＢＲ０・６倍台の低水準で、２０年１月高値１４５７円奪回から一段高へ。（さ）

PER6倍でPBR0．6倍台

※チャートは日足

チャートから読む騰落銘柄

新日本電工（5563）

自動車向け電池材料で人気化し８月１０日の３２８円を底に上昇、６月７日高値３９３円目前に利益確定売りに押される。２５日線近辺までの調整を経て反転となれば１８年１月高値５２８円も視野に入ろう。

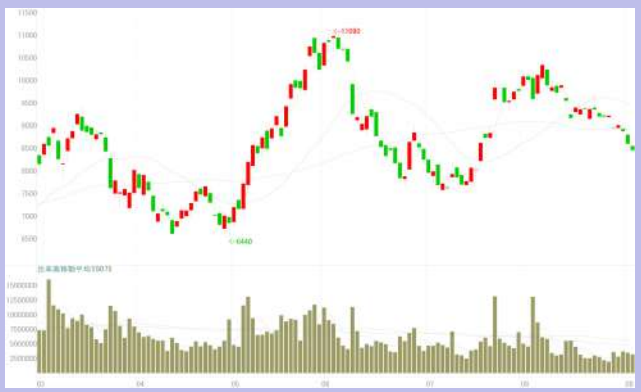
ジャムコ（7408）

日足は１２００～１３５０円の高値保ち合いが煮詰まる。１３週線鋭角的に上昇し、週足は上値かい離による過熱感を解消。リオープン関連株見直しの流れに乗り、上値のフシ１５００円抜けから一段高へ。

メガチップス（6875）

８月１０日に２６４３円安値示現後に一旦は戻る動きを見せたが、戻りは鈍く再度安値更新懸念。この水準から底抜ければ２０年９月安値の２０９８円までフシはない。今期純利益大幅減益予想もネガティブ。

川崎汽船（9107）



６月の上場来高値１万１９０円に対して８月に戻り高値１万４２０円をつけ、日足陰転のあとは５日線に上値を抑えられ下値模索続く。海運市況悪化の一方信用買い残の整理が進まず、週足陰転回避へ正念場。

※チャートは日足

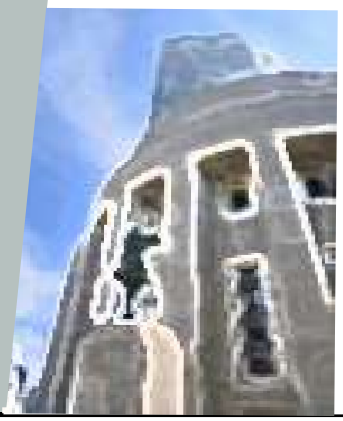
星野三太郎の株街往来

～衰退する決算発表～

３月期企業の第１四半期決算発表が一巡したかと思いきや２月期企業の第２四半期末である８月が通過し、数週間後からはそれらの決算発表が始まるから、月日が立つのが早いと感じる。

新型コロナの感染者が過去最高を更新し続けるも、先の第１四半期決算発表では対面での発表に戻す企業は増えた。ただ、大阪では決算発表に出席するマスコミはコロナ禍前と比べて格段に減少して、今回の第１四半期では筆者だけの出席となり、決算説明を行う社長と１対１になるケースがあった。既に大阪支社を廃止して東京だけというマスコミもあるし、興味がわかない企業には出席しないなど理由は様々だが、それにしても少なすぎると感じてしまった。

株主総会をオンラインでという時代に対面での会見の存在意義を疑問視する向きもあるが、直接会見してこそ経営者の表情を見てとれるというメリットもある。連絡があれば極力出席する方針だが、１社だけで孤軍奮闘してもどうにもならないと感じる虚しさもある。抜本的解決策がない中で発表事態が無くならないのを願うばかりだ。



New product

キリンHD　麒麟特製 酎ハイボール

すっきり焼酎仕立てでお酒のなおいしさ

麒麟特製 クリア酎ハイボール

キリンホールディングス（２５０３）グループのキリンビールは、「麒麟特製」ブランドから、すっきり焼酎仕立てで、お酒の本格的なおいしさを楽しめる「麒麟特製 レモン酎ハイボール」・「麒麟特製 クリア酎ハイボール」（各３５０ｍｌ缶・５００ｍｌ缶）を９月６日から全国発売する。

ウオッカをベースに、焼酎にレモンを漬け込む「レモン漬け込み焼酎」で仕立てたことで、お酒のクセ感を低減し、すっきりと飲みやすいおいしさを実現。まろやかなお酒の味わいが、繊細な料理の味を邪魔しないことから和食との相性は抜群。パッケージについては「麒麟特製」ブランド初のシルバーのブランドロゴを採用することで、上質さと「すっきり飲みやすい」印象を表現している。アルコール度数は７％で価格はオープン。

パナソニック　ナノイーX槽カビ菌除菌

ななめドラム洗濯乾燥機発売

ナノイーX槽カビ菌除菌

パナソニック（６７５２）は、「シワとり・消臭」コースを搭載し、「ナノイーX槽カビ菌除菌」（ＮＡ－ＬＸ１２９ＢＬ／Ｒのみ）やアプリ機能を拡充したななめドラム洗濯乾燥機ＮＡ－ＬＸ１２９ＢＬ他４機種を１０月上旬に発売する。

一度着た衣類のシワやニオイを手軽にケアができるように、「シワとり・消臭」コースを搭載。温水ヒーターで発生させたスチームを、洗濯槽とファンを回転させて衣類全体に当てることで、シワやニオイを取ることができる。さらに、「スマホで洗濯」アプリの機能を拡充。それぞれのアイテムの洗い方に最適なコースをアプリ専用コースとして新たに搭載した。

潮流

9月は最も売られやすい

外国人投機筋売り越しに転じる

marKet bAnk

８月のサマーラリーを演じた背景に外国人投機筋による先物買いがある。投機筋は７月第３週（１９日～２２日）から８月第３週（１５～１９日）まで５週連続で株価指数先物を大幅に買い越し、買越額の累計は１兆９６００億円にもなる。買いの主体は相場水準が上がったため機械的に相場に順張りするＣＴＡ（商品投資顧問）だったとされる。

７月以降、バークレイズとソジェンはそれぞれ約１万枚の日経平均先物を買い増ししていた。金額に引き直すと、それぞれ約２８００億円の買いに相当し、両社を通じたＣＴＡなどの買いが日本株を押し上げてきた。しかし、欧州証券２社は、日経平均先物の日々の売買注文が「売り越し」に転じた。それと歩調を合わせるように、日経平均も天井を打った。

外国人投機筋は８月第４週（２２日～２６日）の先物を６週ぶりに２５５８億円売り越しに転じた。２６日のジャクソンホール会議でパウエル議長は、インフレを抑えるため「ＦＲＢの政策手段を力強く使う」と述べた。利上げは「家計や企業に痛みをもたらす」とも指摘し、景気よりもインフレ抑制を優先することを示唆した。

物価の安定には「引き締め的な政策をしばらく続ける必要がある」とも指摘。インフレ抑制について「やり遂げるまでやり続けなければならない」と述べた。この発言で投機筋は更に先物を売っているだろう。

また、過去２年、パウエル議長はジャクソンホール会議の講演で間違えた発言をしている。２０年は金融緩和を長く続けるために「平均物価目標」へと指針を移行すると表明したが、その後の高インフレで無実化した。２１年は長期の期待インフレ率の安定など５つの理由を挙げ、インフレは一時的と説明したが、結果的に間違っていたとの見方が圧倒的に多い。

２２年は挽回せんとばかりに、タカ派の見解を強調した。２３年夏には「昨年のタカ派姿勢は間違っていた」と指摘されるほど、景気悪化と物価鈍化が進んでいる可能性がある。その結論が出るまでの間、株式を中心に金融市場は不安定な動きとなるだろう。外国人投機筋が先物を売り越している間は株式市場の調整は続く。特に９月は年間を通して最も株式市場が売られやすい月でもあるため警戒が必要だ。

潮流銘柄は**リケンテクノス**（４２２０）、**インフロニア・ホールディングス**（５０７６）、**人・夢・技術グループ**（９２４８）

岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク代表取締役）のプロフィール

１９９９年２月日本初の資産運用コンテスト「第１回Ｓ１グランプリ」にて１万人超の参加者の中から優勝。２００２年にＮＨＫ番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では２０２２年１月の夕刊フジ主催の「株-１グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。ｈｔｔｐ://ｍａｒｋｅｔｂａｎｋ.ｊｐ

景気よりインフレ抑制優先

敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール

証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、２２５先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における２２５先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

危険な円安

戻り売りに徹しろ！

先週の日経平均は前週末比約９９０円安と２週連続週足陰線となった。大幅な下落はジャクソンホールでのパウエル議長の発言であろう。

金利引き締めの早期の緩和を期待して上昇してきた株式市場に対し株価下落も容認しインフレ抑制策を実施し続けるという強い姿勢がはっきりしたからだろう。これで株価下落もインフレ抑制策の一つであるということだ。

ＦＯＭＣのメンバーからも「株安政策」を支持する発言がでており、株価もインフレ抑制策の「成果」として判断材料になっている。「中銀にさからうな」であれば、株価がリバウンドするたびにこうした高官の発言が上昇を妨げることになろう。中銀がインフレを抑えられるまで株価下落も容認するのであれば当面は「戻り売り」のパターンは繰り返されるだろう。

ドル円の日足チャート

日本も円が１４０円台に入り円安が加速している。４～６月期の決算を見れば市場は捉えた。株価上昇は物価上昇を促し、インフレ抑制を妨げ大企業は円安効果で増益をキープしており、７～９月期も円安効果は期待できる。だが、それは大企業に限ってのことである。中小企業は原料高、ジワリと上昇している人件費などで苦しい展開が継続している。

持続化給付金や無利子・無担保の「ゼロゼロ融資」などで辛うじて倒産を免れていたが返済猶予３年が過ぎる２０２３年３月以降は劇的に倒産が増えると想定される。目に見えて経済が失速してくるとスタグフレーションを起こし、ハイパーインフレになりかねない。そうなれば更なる円安が進み国民の生活は貧困化する。

エネルギー自給率が１割しかない日本は海外からエネルギーを買うしかないのである。円安が良かったのは過去の話で、今は円安は「日本が弱体化してる」から売られるのである。１４７円の節目を超えると、もうチャート上の歯止めはなくなる。それまでに「これ以上は円安を容認しない」という姿勢をまずは市場に示してもらいたい。

過去何度も繰り返されてきたが、株式市場において流動性の高い日本は売られる時は欧米に比べて大きく売り込まれる。負の循環が始まった時は「円安、株安、債券安」となり日本が一番売られる。その時も多分コメントは「注視している」だけだろう。そういう展開にならないことを祈っているが、仕掛けが成功すれば一気に崩れる素地はできつつあると思われる。当面、戻り売りに徹したい。

チャート的には２００日移動平均線（２万７４９４円処）、１３週移動平均線（２万７４７６円処）、２６週移動平均線（２万７２２１円処）が下値抵抗ラインとして機能してこよう。だが、割れてきた場合は７月１９日につけた窓埋め（２万７０４３円５８銭）がターゲットとなろう。その下は一目均衡表の雲の下限（２万６９５５円）が意識されよう。３月からの下値上昇トレンドラインは２万６２００円処に現在位置するのでそこが上昇相場を維持する下限となろう。

一方、上値は５日移動平均線（２万７８９６円処）、２万８０００円、転換線（２万８１８２円処）、があげられよう。

今週は９月ＳＱ週である。メジャーＳＱだけに荒れやすいと思われる。仕掛け売りには注意したい。今週は２万６５００円から２万８０００円を想定する。

（ハチロク）

記者の視点

相場見通し

OPECプラスに注目

物色はインバウンド関連

8月26日のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演が想定以上にタカ派的と受け止められ、同日のニューヨーク市場が急落したことを契機に東京市場も調整色を強める動きになり、日経平均では週末に2万7600円を割れる場面があった。

パウエルFRB議長の発言に続いて、クリーブランド連銀のメスター総裁も講演で「来年の早い時期までに政策金利を4%を超える水準に引き上げる必要がある」と発言するなど米国の金融当局者が相次いでタカ派的な発言をしており、利上げの打ち止め時期を探る動きから過剰な利上げによるスタグフレーション懸念を高める動きになっている。

ニューヨーク市場についてはダウ、ナスダック指数ともに50日線を大きく割り込む動きになっているが、50日線である2万757円手前で下げ渋る動きになっており、今週は調整一巡から一旦は反発する動きになるか注視したい。イベント的には海外では5日のOPECプラス会合に注目したい。6月中旬以降、WTI価格が大きく下落したことを受けて8月下旬にサウジアラビアのエネルギー相が減産に舵を切る可能性を示唆している。この発言が減産に直結する可能性は定かではないが、仮に減産決定となれば米国でのインフレ加速要因になる可能性があるだけに注意を払いたい。

国内では7日から1日あたり入国者数上限が2万人から5万人に引き上げられる。これを受けてインバウンド関連が再び注目される可能性がありそうだ。個別では**オリエンタルランド**（4661）や**JR東日本**（9020）や**JR西日本**（9021）などの電鉄各社。ハイテクなど輸出系の調整色が強まるなかで、内需の物色とみている。

当面のスケジュール

- ・6日　7月家計調査
  米8月ISM非製造業景況指数
  8月J.P.モルガン・グローバル・コンポジットPMI
- ・7日　7月景気動向指数
  中国8月貿易収収支
  米7月貿易収支
- ・8日　4-6月期GDP改定値
  8月都心オフィス空室率
  8月景気ウォッチャー調査
  ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
- ・9日　8月マネーストック
  メジャーSQ算出日
  中国8月生産者物価、中国8月消費者物価
- ・12日　8月工作機械受注
  米10年国債入札
- ・13日　7-9月期法人企業景気予測調査
  8月国内企業物価指数
  独9月ZEW景況感指数
  米8月消費者物価
  第77回国連総会開会(～27日NY)
- ・14日　7月機械受注
  米8月生産者物価
- ・15日　8月貿易統計
  7月第三次産業活動指数
  東京ゲームショー2022（～18日幕張メッセ）
  米8月小売売上高
  米8月鉱工業生産･設備稼働率
- ・16日　中国8月工業生産、中国8月小売売上高、中国8月都市部固定資産投資
  米9月ミシガン大学消費者マインド指数

編集後記

気象庁は今年の梅雨明けを確定値で平年並みの7月下旬に変更し、ブーイングを浴びている。速報では史上最速の6月下旬だったものを1カ月程度あとにずらしたのだから、雨が少ないことを前提に予定を組んだ人などは不都合だっただろう。偏西風の蛇行が予測を難しくしたようだが、専門家は高層天気図を確認すると戻り梅雨があり、梅雨明けといっていい状態が2度あったとしている。

東京市場は急ピッチの戻りから一転して急落した。米インフレ動向も蛇行して読み辛いのかも知れない。

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被られたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。